

せいけん
詩集

第六十一篇

作：近藤せいけん

「旅立ち」

朝日と共に 家人に見送られ

住み慣れた 家を

今離れます

母は私の手を取り 涙ぐみ

何回も何回も

幸せになつてね

幸せになるんだよと

繰り返し 繰り返し

そして手を

ギュツと握っていました

父は玄関の隅に 黙つて

立っていました

父の目に朝日があたり キラッと

光るものを見ました

迎いの車が 着きました

後部座席に座りマドをあけ

父母を見ました

母は目頭をハンカチで押さえ

右手で私の手を いつまでも

いつまでも 握っていました

クラクションが小さく鳴り

車が動き始めました

白髪の増えた父

手を軽く挙げ 優しい顔で

頭を下げました

私は 私

今朝 旅立ちます

私は 私は

あなた方の子で

幸せでした